（科目区分）学校教育実践コース（美術教育専修）・造形芸術コース
（授業科目名）彫刻基礎演習・立体基礎演習

原初的な木彫制作と彫刻の基礎考察

美術教育講座　佐々木昌夫

１．授業の概要

本授業は，学校教育実践コース（美術教育専修）と造形芸術コースのそれぞれ１回生を主な対象とした必修科目であり、彫刻分野における基礎的な学習を実技中心に行った。本年度の登録学生は，学校教育実践コース（美術教育専修）2 名（1 回生 1 名・3 回生 1 名），造形芸術コース 14 名（1 回生 10 名・3 回生 4 名）であった。

・授業目的（両コース共通）

彫刻の素材・技法・対象などについての，基本的な考え方や見方を理解する。特に原初的な技法としてのカーヴィングの実践をとおして，彫刻制作の基礎的な方法を身につける。

・到達目標（両コース共通）

①彫刻における量感・動勢・形・空間について考察して，自身の彫刻についての考えを構築する。

②カーヴィングの実践をとおして，基礎的な技術を習得するとともに，新しい形を発見する。

・関連するディプロマ・ポリシー

［彫刻基礎演習］

子どもの発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができ，個に応じた指導や説明ができる。（技能・表現）

［立体基礎演習］

地域社会の造形芸術分野に関する文化振興に貢献するため，高度な技能と豊かな表現能力を身につけている。（技能・表現）

・授業方法，形態，内容の概要（両コース共通）

第 1 回目の授業で，トラック諸島・ミクロネシアに伝わる木製民具（国立民族学博物館所蔵）の例を提示して，彫刻における触覚性の重要性と原初性について説明した。次に，長さ 1m で各辺が約 3 ㎝×3 ㎝の木材（角材）を素材として与えた。その角材から，主に大型カッターを使用して，具象抽象を問わず連続した多様な形態をカーヴィングで制作させた。一般的なカーヴィングでは，最初にスケッチやマケットを制作し，素材に繰り返し下書きを描きながら，計画的に制作を進めるものと言えよう。だが今回は，スケッチやマケットは制作させず，可能なかぎり下書き無しで，いきなり角材の一方の端から削り始めさせた。それは本制作が，ヨーロッパで確立されたスタンダードな彫刻の方法によるのではなく，彫刻の原初的な地平に立つ試みだからである。その地点において，原初的な要素である触覚性を体現させながら，彫刻についての根源的な考察を，本授業では行った。また，合評会を 2 回行い，お互いの作品を鑑賞させて，意見交換と討議を重ねた。最後の授業では，現代美術の作品と筆者の作品をスライドで紹介して視野を広げながら，レポートにより考えの整理と言語化を図った。

２．授業時間外学習の促進

本授業では，先述のように，トラック諸島・ミクロネシアに伝わる木製民具や現代美術作品を紹介するなど，木彫制作以外にも様々なものに興味を持つように勧めた。それは，作品の探究に役立つとともに，個々の学生の彫刻観の構築にも役立つと考えられる。

また，制作過程において，他の学生より大幅に遅れた学生には，制作工具の安全指導を十分にしたうえで，授業時間外での制作を勧めた。その際，大まかな制作スケジュールを常に提示していたことは，学生の授業時間外学習への意識を高めることに，大きく貢献していたと思われる。

３．アンケート結果

最後の授業で，以下のような選択方式と自由記述方式のアンケートを実施した。本年度は，登録学生全員（16 人）から回答を得られた。（自由記述の回答は，簡略化して掲載した。）

【授業の難易度】

[簡単]0 人　[やや簡単]1 人　[ちょうどよい]12 人　[少し難しい]3 人　[難しい]0 人

【授業のスピード】

[遅い]1 人　[やや遅い]2 人　[ちょうどよい]12 人

[少し速い]1 人　[速い]0 人
【授業への関心】
[全く関心がない]0 人　[あまり関心がない]0 人
[何とも言えない]2 人　[関心がある]9 人
[大変関心がある]5 人
【授業への満足度】
[不満]0 人　[少し不満]1 人　[普通]2 人　[満足]9 人
[大変満足]4 人
【この授業で学んだと思うこと】
・丁寧にすることの大切さ。
・根気よく作業することの大切さ。
・木彫の難しさ。(6 人)
・木彫の基礎。(4 人)
・抽象的な形を彫ることの面白さ。
・やすりを使う時はマスクが大切ということ。
・彫刻に対する姿勢。
【改善してほしい点,評価できる点】
・時間配分の改善。
・授業のスピードがもう少し速い方が良い。
・単調な作業の改善。
・時間が少なかった。
・楽しい授業だった。(2 人)
・自分の好きなように彫ることができた点。(2 人)
・題材が面白いことと,15 回の授業で作る作品のレベルとしてちょうど良いこと。
・技術だけでなく,本質的な部分も学べること。
・作品が作れたことと,リラックスできた状況で作業がしやすかったこと。
・一つの作品にうちこむ時間がたくさんとれるところが良い。
【授業時間外学習(制作)】
・しなかった。(3 人)
・木を削る作業を 1 時間した。
・同上を約 4 時間した。
・木を削る作業と紙やすりで磨く作業を合計 1 時間 30 分した。
・同上を約 6 時間した。
・紙やすりで磨く作業を中心に 1～2 時間した。
・紙やすりで磨く作業とオイルでの塗装を合計約 30 分した。
・同上を約 1 時間した。
・同上を 1 時間 30 分した。
・折れた作品をつなぐ作業を 1 時間以上した。
【今まで見たことがない形の発見】
・発見できなかった。(3 人)
・発見できた。(9 人)
・あまり発見できなかったが,思っていたことと違うことが起こった。
・他人の作品で多く発見した。
・偶然できた形もあるが,どこか見たことのある形になってしまった。
・いつも発見の連続だった。
【その他,授業の感想など】
・自作品で気に入った部分が一つでもできて良かった。
・自分のペースで進められて良かった。
・作品が完成した時の達成感がとてもあった。
・思っていることを実際にやってみると大きく異なった。また,木が折れたらどうするかなど,考えることが多くあった。

４．総括

アンケート結果から,本授業の作品制作の時間配分において,紙やすりで作品を磨く作業の時間が不足していたと思われる。このことについては,作品の表面処理と完成度の関係の重要性からも,来年度,時間配分の改善が必要である。一方,授業計画の段階では,一つの作品に長時間をかけて制作することへの不満を危惧していた。ところが,アンケート結果を見るかぎり,授業スピードのことや単調な作業の改善という指摘が少しはあったものの,ほとんどの学生は,一つの作品にじっくり時間をかけて取り組むことに,意義を見出していたと思われる。

授業目的･到達目標については,概ね達成できたと考えられる。だが,到達目標①の自身の考えの構築については,本来,完成ということはあり得ないので,これからも常に検討して深化するべきであろう。本授業は基礎的な授業という性質があることから, 関連する DP の技能･表現は,その基礎の部分においてのみ,ほぼ達成することができたと考えられる。しかし,学校現場や地域社会への活用は,まだスタート地点に立ったばかりであると言えよう。

授業時間外学習については,実行した全ての学生が作品制作をしていたが, 危険を伴うという彫刻の性質から,常に工具の安全指導の強化が必須である。また制作実践のみではなく,本来,彫刻はその表現と創造につながる,それぞれの主体性が重要であると言える。そのためには,学生が能動的な好奇心を発揮することができ,その先に主体的な表現と創造の意欲があらわれる場としての,自由時間の確保が最も基本であろう。